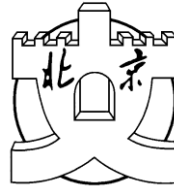


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第2号
令和3年5月31日
校長 細野 輝彦

異文化を楽しむ

北京日本人学校運営理事会
理事長 西 隆之

4月より北京日本人学校 運営理事会の理事長に就任いたしました西と申します。

まずは1年間、北京日本人学校に学ぶ皆さんの一人ひとりの心からの笑顔が増えるよう、理事12名一同、学校運営にお役立ちができるよう、努めて参りますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

さて、日本から校長先生他7名の先生も着任され、約200名の児童生徒の皆さんに全力で指導を進める体制がスタートしました。新任の先生の皆さん、慣れない環境で、ご自身の生活習慣を中国にあわせていくご苦労もあろうかと思いますが、ぜひそのご苦労を笑い飛ばしながら、まずは北京に来て100日間を乗り越えて下さい。先生ご自身がぜひ北京を楽しみ、中国に学ぶ姿勢になっていけば、それは子供たちに伝わり、授業が一層、楽しく有意義なものになるのではないかと思います。ぜひ頑張ってくださいませ。



私自身も、北京に来て2年が経過しました。私は実は、海外で生活するのは2回目であり、2005年から3年間、アメリカサンディエゴというところで勤務していました。アメリカ勤務時は、妻と、当時小学校2年生だった長女も帯同してくれました。私自身、日本とは勝手が違う仕事習慣に戸惑い、悩んだ時期もありましたが、会社に行けば、日本語ができる同僚がいたり、英語は最低限できていたりしました。一方小学校2年生の長女は、現地校ネイティブの先生の英語は何を言っているのか分からなかったと思います。クラスに日本語が喋れる小学生がいない環境に突然、放り込まれた状況でした。「学校に行かない!」と泣きじゃくる長女の手を先生がクラスの中に引っ張り、バタンと教室のドアを閉めるような日もありました。しかし、ある日突然、中南米から引っ越してきた隣の家の女の子が遊びに来るようになり、学校にパジャマで登校する日が設定されているような、アメリカらしい自由な雰囲気のある学校に次第に慣れていきました。そしていつしか、私の英語レベルを追い越し、私も妻も聞いてもわからないアメリカのテレビを見て、クスクスと笑っている長女の姿がありました。日本とは異なる生活習慣に、大人の私よりも何倍、何十倍も苦労した分、それを克服した頼もしい姿に頭が下がる思いでした。

おかげさまで、今、大学生になった長女は、コロナ前でしたが、親の心配はよそに、一人で東京から韓国経由で北京まで遊びに来て、万里の長城、天安門広場などを市内観光する一方、生活者目線で、盒马鮮生スーパーや、街のレンタル自転車を利用していました。わずか3日間の滞在でしたが、「日本と比べて随分古いところと、日本の先を行っているところが同居していて、中国って面白いね」と言って、元気に帰っていきました。国という物理的な単位を超えると違う世界があること、そして、その違いを自然に受け入れ、そこに興味を持てること、長女の姿から教わった気分でした。

北京日本人学校は、日本の学習要領にそって授業を行っていますが、月壇中学との弁論大会、中国語の授業等、カリキュラムの中に異文化を学んでいただく工夫もされています。ぜひ、小学生、中学生という多感な時期に、慣れ親しんだ日本を離れて生活することを、貴重な経験としてとらえ、様々な苦労を前向きに乗り越えていただければ、将来に向けての貴重な経験、財産になると思います。理事会が、学校生活がより充実したものになるよう、微力ながらお手伝いしてまいります。どうか1年、宜しくお願ひ致します。

GIGA スクール構想



GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、「全ての人に国際的で革新的な入り口を提供すること」を意味しています。子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境を提供すべく、4月から本校も日本国内の学校と同様に1人1台端末の本格運用を開始しました。

いざ開始してみると、さすが令和の子供たち。写真を使いながら考えをノートにまとめたり、スロー動画を見てハードルの越え方を改善したりとあまりに自然な活用の姿に驚かされます。もはや新しい文房具という言葉は比喩ではなく端末での学習が当たり前となる時代の到来を感じる毎日です。

全世界で加速度的に進化を続ける ICT。子供たちが社会へと旅立つ頃には、今よりもさらに身近で、誰もが使えて当たり前になっているはずです。安心して社会へと旅立てるよう、教職員も「GIGA in JSB」というプロジェクトチームを発足させ、日夜学習効果を高める活用の研究を続けています。

子供たちも教職員もまだまだ「入り口」をくぐったばかりです。新しい学習の始まりを温かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。(GIGA in JSB)

春の穏やかな風とともに、にこにこ笑顔のかわいらしい1年生が入学してきました。入学式では元気よく返事ができました。そして、対面式では上級生から入学を祝ってもらいました。ドキドキ・ワクワクすることに出会い、楽しい学校生活になることを祈ります。

授業が始まって1か月が過ぎました。どの子も、やる気満々。真剣な表情で平仮名を書いたり、ブロックを使って数を数えたり、新しい学習にどんどんチャレンジしています。自分の伝えたいことを元気よく発表したり、友だちの話を傾きながら聞いたりする姿も素敵です。一生懸命に頑張る1年生の姿に毎日感動しています。たくさんのことを経験して、心も身体も健やかに成長してほしいですね。

生活科では、学校の中を2年生と探検しました。どの子も興味津々。初めて見た物や出会った先生のことを、もっと知りたいという思いをもちました。アサガオの種も蒔きました。やっと芽が出ました。大切に大切に育てていきます。

(小学部1年)

1年生のニュース



事務局のまど

さる5月17日、北京日本人学校運営理事会の定例理事会が開催されました。今年度に入って2度目の理事会でした。前回4月は、細野校長は大連で隔離中、出張や他の要件でオンライン参加を余儀なくされる理事が他に数名という状況でしたが、今月の理事会では、ほぼ全員が揃い、いよいよ本格的に今年度の理事会が始動したという雰囲気を感じられました。さて、理事会ではどんなことが議論されているのでしょうか？毎月のルーティンの話題としては、直近で予定されている学校行事や、前月の会計報告などがあります。他に、校内の規則や人事、特別に手当が必要な施設設備の整備計画などがしばしば議題に上がります。理事は大使館からの方々と主に日本商会から推薦された各社の方々が務めてくださっています。本業がご多様な中、ボランティアで毎月の会議出席のほか、セキュリティや施設保全、財務等のトピックごとに学校からの相談にのってくださっています。理事の皆さんがよく口にされるのが「日本人学校は北京の日本人社会のかなめ、日本人コミュニティのインフラ」という言葉です。教学の部分以外、学校運営の基礎を支えてくださっている皆さんに感謝です。(事務局 倉片)

ただいま 何人？

小学部		中学部	
1年	29	1年	21
2年	22	2年	13
3年	36	3年	14
4年	25	中合計	48
5年	21		
6年	18		
小合計	151	総合計	199

※令和3年5月31日現在